

忘れない、つなげていく...

3.11 逗子 6万人のキャンドルを灯そう

3月11日のことを忘れず、未来へとつなげていく。そして、逗子と被災地の絆を深めつなげていく。これからも力を合わせて支援を続けていきましょう。

祈り 3月11日午後2時46分 市内各会場で1分間の黙とうを行います。

イベント 市内のさまざまなところで市民が中心となって、特別イベントが企画されています。

★フェスティバルパーク では・・・ **参加費無料!**

『キャンドルを作ろう』

10:30~13:30 随時受付

※先着 100名を予定。小学生以下は保護者同伴。

ラベルをはがした透明なビン(ジャムなどの空きビン)を1人1個持ってきてください。作ったキャンドルは会場で灯します。キャンドルナイト終了後は持ち帰れます。

HP お家でキャンドルを灯す方法、市内の3.11 特別イベントの進捗情報などを更新中!

今すぐアクセス!

逗子6万人のキャンドルを灯そう **検索**

問合せ: 市民協働課 873-1111 (内 7824)

高校生の皆さん

高校生のための国際理解セミナー

東海大学のベストティーチャー

ダイスケ先生と考える

70億人の世界、人類の未来

いろいろな国から来た留学生や、国際問題を学んでいる大学生と一緒に考え、議論してみませんか。初めて会った人とも積極的に話をしてみようという勇氣こそ、世界へのパスポートです。

とき **3月24日(土) 10:00~16:00**

ところ 市民交流センター2階会議室

講師 小貫大輔氏(東海大学 教養学部 国際学科 准教授)

対象 逗子市内在住、在学の高校生 または同年代の若者

参加費 無料

定員 40名(申込み先着順)

申込み 申込書(市民交流センターで用意、市ホームページからも入手可)に必要事項を記入しFAX、または直接市民協働課へ

3月 フール センター カレンダー

※開館時間は、9時~21時です。

日	曜日	プール専用使用コース数		交流センター
		10~12時	13~15時	会議室関連
1	木		2コース	(4月分先着予約開始)
2	金			
3	土		2コース	
4	日			
5	月		2コース	
6	火	休館日		5月分抽選申込受付期間
7	水	2コース		
8	木		2コース	
9	金			
10	土		2コース	
11	日			
12	月		2コース	
13	火		2コース	
14	水	2コース		
15	木		2コース	
16	金			
17	土		2コース	
18	日			
19	月		2コース	
20	火			(5月分抽選結果発表)
21	水	休館日		当選確定手続期間
22	木		2コース	
23	金	2コース		
24	土		2コース	
25	日			
26	月		2コース	
27	火		2コース	
28	水	2コース		
29	木		2コース	
30	金			
31	土		2コース	
4/1	日			(5月分先着予約開始)
2	月		2コース	
3	火	休館日		
4	水			

- ・専用使用がある時間帯は3コースのみの使用となります。
- ・小学校3年生以下は、保護者などの付添が必要です。(付添1人につき2人まで)



東日本大震災から1年

昨年7月南三陸町に行き、中心市街地が跡形もなく消えた場に立ち、言葉を失いました。三方を山に囲まれ海に面した地形は逗子とよく似ています。他人事ではなく津波災害は私たちの町にも起こると考え、対処しなければならぬと強く思いました。

一方、今も被災地では、住民の方たちが心にいろいろな思いを抱きながらも、懸命に生きようと頑張っておられます。

昨年来、逗子市はもとより市民の皆さんによる様々な支援活動がおこなわれてきましたが、想像を超える甚大な被害にこれからも継続した支援が必要です。「被災地をわすれぬ」「被災地とつながる」ことがとても大切なことではないでしょうか。

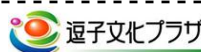
3月11日は被災地の方々や支援に携わった人ばかりでなく逗子市にとっても決して忘れてはいけない日だと思います。そこで逗子市では、若手職員を中心に「3・11プロジェクト」を立ち上げ検討を重ねてきました。市民一人一人が大震災のことを想

う時間を持つ機会をつくり、市民団体の活動を繋ぎ、市民の方々と想いを共有する「キャンドルナイト」キャンペーンを実施します。

この日市民の想いを被災地に届けるとともに、自分や家族の身を守ることや防災について話し合う機会にさせていただけたらと思います。どうぞみなさまご参加ください。



小田鈴子副市長



市民交流センター

〒249-0006 神奈川県逗子市逗子 4-2-11
TEL 046-872-3001
FAX 046-872-3003
kouryu@city.zushi.kanagawa.jp

キャンドルの明かりでつながる思い

東日本大震災の発生から1年を迎える3月11日に、逗子市民の思いを被災地へ届けるキャンペーンを実施しようと、その企画を検討する市のプロジェクト・チームが組織されました。メンバーは、若手を中心に自ら手を挙げた市の職員、11名。

「何のためのキャンペーンか」「その日でなければできないことって、なに?」「市役所に求められる役割は?」など、いろいろな角度から検討を進め、まちじゅうの明かりが消えた「あの日」のことを忘れないという思いをこめて、いわゆる「キャンドル・ナイト」をやろうと決めました。皆さまのところにも、キャンペーンのお知らせが届けられるはずですよ。

ある日、プロジェクト・チームの会議で、電気を消して、静かな音楽を流し、皆でキャンドルを囲んだことがありました。その瞬間、そこに生まれた不思議な空気。「あの日」から1年の間に経験したいろいろなことを思い出し、思わず涙ぐむ人もいました。

キャンドルの明かりを囲んで、皆の思いがつながった瞬間でした。その思いが、逗子のいろいろなところが、被災地の人びとにも届きますように。

「6万人のキャンドルを灯そう」特設サイト

<http://www.city.zushi.kanagawa.jp/syokan/simin/311/index.html>

市民協働コーディネーター 木下理仁

ボランティアセンター

ボランティアセンターってどこに所属しているの?

- 総務係
- 地域福祉推進係
- 広報・調査担当
- 地域福祉活動担当
- 共同募金事務局
- ボランティアセンター
- 生活支援係
- 地域包括支援センター
- さくら貝サービス事業所

逗子市社会福祉協議会

逗子市社会福祉協議会は逗子市福祉会館の中にあり、ボランティアセンターは地域福祉推進係に位置付けしていますが、相談窓口は市民交流センターにもあります。

市民協働課等関係機関と連携しながら、相談窓口機能・コーディネート機能・啓発機能の強化を具体的に図っています。ボランティア活動してみたい方、ボランティアの手を借りたい方などお気軽にご相談ください。お待ちしております。

開設日・時間:

月曜日~金曜日 9時~17時
(交流センター休館日・祝日は除く)

連絡先:
電話 046-873-8037
FAX 046-872-2519
Eメール vc@zushi-shakyo.com



昨年 11 月 9 日の夜、東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方沿岸部において、がれきの撤去、避難所の運営、仮設住宅での支援活動等のボランティアに携わった市民が集い、現地で活動した者でなければ分からない情報を出し合って整理し、意見を交換するためのワークショップを市民交流センターで開催しました。主催は「おとなの放課後カフェ」（市職員の自主研究グループ）で逗子市と社会福祉協議会の後援により開催し、このような形では初めての意見交換会となりました。



社協ボランティアバスツアーのひとコマ

当日は、現地でボランティア活動を行った市民や市職員 35 人が参加し、グループに分かれて“ワールドカフェ”方式で「現地に行って初めて分かったことの洗い出し」から始まり、「被災地の課題の整理」、「より良い支援活動のあり方」、「逗子市の災害対策に活かすべきこと」などについて多くの意見が出されました。

一主な意見は次のとおり

現地に行って驚いたこととして、

- ・津波被害のあったところとなかったところでは天国と地獄の差
- ・松原の松が 1 本残らず流されていた
- ・半年以上たっているのに、未だ復旧に時間がかかりそう
- ・泣いている人が多く、人が疲れて、力を失っていた
- ・火災が戦場のようだった
- ・支援物資があり余っているところと届いていないところにギャップがあった

今後、必要なこととして、

- ・ボランティアの受け入れに関しては、通常時からの体制整備と人材育成が重要
- ・避難所に関しては、ごみ、トイレの問題を解決する必要、心のケアが必要、子どもの教育を継続できる環境が必要
- ・行政に関しては、職員の意識改革が必要、市に裁量権を持たせる必要
- ・情報に関しては、ツイッターや携帯電話の活用、消防団の活用、リアルタイムで情報を発信できるしくみづくりが必要
- ・全体では、「みんなで頑張ろう」を逗子の合言葉に！

三浦半島活断層調査会



三浦半島活断層調査会は、「活断層による減災」を目的に 1995 年の阪神淡路大震災後に結成され、逗子支部は 2008 年。3.11 大震災は、本会の活動にも大きく影響した。震災以降 27 回もの普及講演を、1 月 21 日に逗子市と共催で「相模湾岸の津波と地震・活断層」と題したシンポジウムを開催した。

地震予知は不可能であるが、震災後の科学解析は飛躍的に進んでいる。兵庫県南部地震では、活断層の活動履歴が解明され、「活断層」は市民権を得た。3.11 震災では、誘発地震が市民権を得るだろう。予算で想定された津波は、歴史津波を参考に改められた。

津波は「逃げれば助かる災害」である。元禄地震で 350 名以上の死者が出た伊東市では、その教訓により、関東大震災で全員無事。関東大震災から 90 年。構造物は耐震化され、都市計画により地震火災は減少した。しかし、土砂災害や交通災害は増えている。逗子でも「津波てんでんこ」(※)。私たちに伝えられた教訓である。

～東日本大震災以降の活動～



三浦半島活断層調査会逗子支部
支部長 蟹江由紀 顧問 蟹江康光



※「津波てんでんこ」を防災教訓として解釈すると、「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自てんでんばらばらに一人で高台へと逃げろ」になる。また、自分自身は助かり他人を助けられなかったとしてもそれを非難しない、という不文律にもなっている。(ウィキペディアより)

逗子災害ボランティアネットワーク



代表 野内 博

災害時に全国から被災地へ支援ボランティアが入る事態は、阪神淡路大震災以来定着しています。しかし被災地にボランティアを受け入れる仕組み「受援力」がないと、折角の支援エネルギーを有効適切に生かすことができません。

今般の大震災では受援力が充分とはいえず、被災者に届かなかった事例もありました。災害は何時来るかは判りません。逗子が被災した時にそなえ、事前に受援力の充実をはかるべく、当ネットは活動していきます。



釜石市 鶴住居 (7/2)



～東日本大震災に伴う活動の記録～

◎被災地支援

- ・当ネットが加盟している「神奈川災害ボランティアネットワーク」と神奈川県、神奈川県社会福祉協議会の三者で被災後直ちに結成された「かながわ東日本大震災ボランティアステーション」の一員として県内のボランティア希望者に対してボランティアバスでの募集・指導・派遣添乗の協力活動などの後方支援活動
- ・逗子市で呼びかけた被災地宛救援物資の仕分け作業参加
- ・逗子市社会福祉協議会主催のボランティアバスに作業要員として参加

- ・5/22 逗子市主催 大震災まちづくりトークへの開催提案と参加
- ・6/11 逗子市主催 大震災への支援講座参加
- ・6/19 新宿町内会 津波対応セミナー 講師参加
- ・10/16 市民まつり 被災地支援ボランティア活動写真展示

◎関連行事参加

- ・11/3 逗子市主催 [奇跡のボランティア組織 石巻モデルセミナー] 参加
- ・11/9 逗子市職員主催 被災地ボランティア経験者交流会参加



市民活動のススメ講座

逗子都民だって休日は逗子市民!



逗子ライフを楽しむチャンスは身近な地元へ転がっています。「休日に何かしたい」「仲間作りは？」プロのコンサルタントが提案するヒントから新たなライフスタイル発見!

とき 3月18日(日) 10:00~12:00
 ところ 市民交流センター2・3会議室
 講師 松本すみ子さん
 (NPO 法人シニアわーくす Ryoma21 理事長、シニアライフアドバイザー、キャリアコンサルタント)
 対象 地域での活動に関心のある市内在住者(女性も可)
 定員 先着 50 人
 申込み 電話、FAX、Eメールで、または直接市民協働課へ



市民活動団体情報交換会

ふれあいサロン運営者交流&情報交換会

市内のふれあいサロン活動に関わっている皆さん、サロンの魅力や悩み、それぞれの思いを、和やかな雰囲気でお話ししませんか?

とき 3月30日(金) 10:00~11:30
 ところ 市民交流センター2・3会議室
 対象 ふれあいサロンを運営している人
 持ち物 サロンのレクリエーションで使った道具
 定員 先着 50 人
 申込み 電話、FAX、Eメールで、または直接市民協働課へ



みんな集合!

